

消防広域化 主なメリット

住民サービス向上

	埼玉西部消防局	埼玉東部消防組合消防局
初動体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・市境の現場への救急車到着時間が6分から5分に短縮 ・火災発生時の初期出動台数が3～5台であったものが、9台出動に拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・H27. 1. 16 から指令を統合し直近方式に変更。市境の現場への現場到着時間が短縮された。 ・火災発生時の初期出動台数が5台であったものが、8台出動に拡充

人員配備の充実

	埼玉西部消防局	埼玉東部消防組合消防局
現場要員の増	<ul style="list-style-type: none"> ・総務及び指令部門から58名を現場に配置 ・ポンプ車を乗換運用から専従化 	<ul style="list-style-type: none"> ・本部機能の統合によって57名を現場に配置
業務の高度化・専門化	<ul style="list-style-type: none"> ・高度救助隊、山岳救助隊の新設 ・指揮隊の増員（2人→3人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・水難救助部隊、高度救助隊の新設 ・消防局に救急課を設置 ・加須と白岡に指揮隊を新設

消防体制基盤の強化

	埼玉西部消防局	埼玉東部消防組合消防局
装備の効率的運用	<ul style="list-style-type: none"> ・重複するはしご車、化学車の見直し見直し後、経費節減が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NBC部隊の専門化で資機材集約による節減 ・消防車両の複数台発注による割引額の増 ・はしご車3台の効率的運用による消防力の強化
無線デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ・単独整備に比較して5億9千万円の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・単独整備に比較して4億6千万円の削減
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・職員年齢の平準化が図られた ・訓練施設の有効利用 他の構成市の訓練施設が利用可能に 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ローテーション活性化 異動先が4～11課署から23課署へ ・職員モチベーションの向上 消防大学校への研修派遣の拡大